

2018年度 事業報告

I 施設の設置・運営事業《公益目的事業(WAC事業)・その他事業1・2》

- 公益目的事業：WAC法に基づく施設(疾病予防運動センター・高齢者総合福祉センター・在宅介護サービスセンター・有料老人ホーム)の設置および運営
- その他事業1：疾病予防運動センターのうち60歳未満の利用者(全利用者の3割相当)に該当する部分
- その他事業2：介護老人保健施設・訪問看護ステーション・ケアプランセンター(奈良事業のみ)

*WAC(ウェルイング・コミュニティ)事業:

1989年に厚生省(現厚生労働省)が「ふるさと21健康長寿のまちづくり事業」としてスタートさせた施策で、地域で暮らす高齢者が健康で安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりをめざして、地域全体に社会福祉サービスを提供するために、健康・福祉施設を総合的に整備する事業

(1) 奈良事業 (厚生労働省WAC認定事業：1990年10月17日付)

① 疾病予防運動センター (WAC第1号施設) 【ニッセイ・アーク西大和】

- ・2018年度より業務委託先が株式会社コナミスポーツクラブからセントラルスポーツ株式会社に変更となり、移行時は混乱もありましたが、レッスン強化等で会員へのサービスレベル維持・向上が図れました。今後は、指導・レッスンが出来るスタッフを増やし、更なるスキルアップ、会員数増、売上増を目指し取り組んでいきます。

② 診療所 (WAC第1号施設付置診療所) 【ニッセイ聖隷クリニック】

- ・終末期における一連の患者・家族への援助を充実させるために外部研修へ積極的に参加し、またマニュアルやパンフレットの見直しを実施し、全職員が同じ対応が出来るように取り組みました。
- ・外来は、ご逝去などによる通院中入居者の利用終了に加え、河合町住民の高齢化により、通院困難な患者が増加していることが影響し、患者数が減少して予算未達となりました。今後は地域に向けた診療体制の構築が必要になります。
- ・入院は、終末期を迎える方に良い環境で過ごしていただきたいという思いから、3月に個室を5床改修しました。2019年度から個室料を算定し、収益確保も含めて運用していきます。

③ 高齢者総合福祉センター (WAC第2号施設) 【ふれあいプラザ】

- ・女性入居者や地域の方をターゲットとしたクラフト系講座「ハーバリウム」「アロマワックスカップ」を計3回開催し、いずれも予想を超える受講者数で、講座内容及び出来上がった作品も好評でした。
- ・地域の方を無料で招待する園内ホールイベントでは、定員を超える申込みがありました。より多くの方にご参加いただくため、続けて2回落選がないよう配慮しています。また、年1回開催しているまほろばホールイベントでは、「山田耕筰の世界」と題した音楽・ヴァイオリンなどの演奏会を開催したところ、600席のホールがほぼ満席となり、地域の音楽イベントニーズの高さを再認識しました。

④ 在宅介護サービスセンター [訪問介護、福祉用具貸与・販売事業] (WAC第3号施設) 【ニッセイせいれい在宅介護サービスセンター西大和店】

- ・訪問介護については、利用者数、時間、回数とも増加しましたが、要介護者の入院やご逝去・施設入所が重なったことで、利用者数、収益ともに予算未達となりました。
- ・河合町主催のサービス事業所連絡会・合同研修会などに参加し、地域との連携強化に取り組みました。

⑤ 訪問看護ステーション [訪問看護事業] (WAC第3号関連施設) 【訪問看護ステーション西大和】

- ・介護保険扱の利用者は、施設への入所や入院、ご逝去などで利用終了者が増えたため減少しましたが、医療保険扱での訪問件数が増加したことで、全体での訪問件数は予算達成となりました。
- ・ご遺族などへの訪問時に、メッセージと写真を持参してターミナルケアの振り返りを行い、病院・施設でのご逝去についても担当職員が弔問に伺うなど、グリーフケアにも積極的に取り組みました。

⑥ ケアプランセンター [居宅介護支援事業] (WAC第3号関連施設) 【ニッセイせいれいケアプランセンター西大和】

- ・「西和地域7町における入退院連携マニュアル」の活用を図り、医療機関との連携強化に取り組みました。
- ・防災への取り組み強化のため、在宅サービス室合同での机上災害時訓練を年1回実施しています。

⑦ 有料老人ホーム [特定施設入居者生活介護事業] (WAC第4号施設) 【奈良ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の新規契約戸数は22戸、退去が18戸(一般居室12戸、介護居室6戸)、介護居室への住替えが10戸ありました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は405戸(総戸数412戸に対し入居率98.3%、入居者数513人)となり、引き続き高い入居率を維持することができました。
(一般居室357戸/362戸(入居率98.6%)、介護居室48戸/50戸(入居率96.0%))
- ・入居者の平均年齢は82.1歳(男性81.0歳、女性82.6歳)となり、対前年+0.1歳でした。
- ・総入居者数513人のうち要介護等認定者数(割合)は年度末144人(28.1%)となりました。
- ・11月に介護居室を4戸増築し、必要とされる方への住み替えを円滑に行うことができました。
- ・認知症の理解と支えあい、助け合いの意識向上を目的とした月一回のイベント「D-Books cafe」を実施し、認知症の方とその家族、お元気な方との交流の場となっています。
- ・入居から看取りまでご入居者の「その人らしい生活」を包括的・継続的にサポートする“いきいき生活室”が2年目を迎え通年稼働しました。相談件数は64件、内容は健康・看護介護・生活など多岐にわたりました。また、入居者ボランティアグループ「虹のわ」の11名の活動を支援し、園の清掃や洗濯物たたみ、夏祭りのお手伝い等、活動の幅を少しずつ広げています。
- ・大食堂の委託業者が日清医療食品株式会社から西洋フード・コンパス株式会社に変更となり、「エデン食堂」をアピールする為に、誕生者会を会食形式で実施するなど、認知度アップに取り組みました。結果、喫食率は対前年1.0%増加しました。
- ・人財育成委員会を中心に、「接遇マニュアル」の改訂・巡視・職場へのフィードバックを行い、各職場で目標の設定と理念の唱和を実施しました。また、チェック表の活用や勉強会などを通して接遇向上に取り組むことができました。

⑧老人保健施設〔介護老人保健施設、短期入所療養介護、通所リハビリテーション〕

(WAC付帯施設)【奈良ペテルホーム】

- ・4月の介護報酬改定を受け、在宅復帰・在宅療養支援を充実させ、10月に訪問リハビリテーションを新規開設、11月には「在宅強化型老健施設」として届出ができました。しかし、通所リハビリテーションにおいては利用者数が減少し、年間を通して大幅な減収となりました。
- ・環境面においては、ベッドの更新(50台)・棚・洗面台・照明等の大規模改修を行い、利用者にとってより快適な環境を提供することができました。
- ・2階フロアでは換気や空気洗浄が長年にわたる課題として、感染症蔓延の原因の一つとなっていました。が、空気洗浄及び加湿機器2台を設置した結果、湿度が常時適度に保たれ、インフルエンザ等の集団感染は発生しませんでした。
- ・地域ケア会議への参加や、河合町地域包括支援センター主催の「しゃきつと教室」の立ち上げに向けて講師を派遣するなど、河合町が企画する事業に積極的に参画しました。

(2)松戸事業

(厚生労働省WAC認定事業：1994年12月15日付)

①疾病予防運動センター (WAC第1号施設)

【ニッセイソラフィットクラブ 松戸】

- ・地域密着型スポーツクラブを目指し、住民参加型のイベントを増やすことに加え、ハード・ソフト両面のリニューアルを積極的に実施し、清潔感・利便性のある施設を提供した結果、会員数は対前年1.9%増となりました。
- ・エデンの園入居者の新規利用者も対前年4.0%増加し、健康維持増進への効果が期待されます。

②診療所 (WAC第1号付置施設)

【松戸ニッセイ聖隷クリニック】

- ・皮膚科外来の開設により、外部医療機関への受診者数減少だけでなく、入居者サービスの向上や、付き添い職員の負担軽減にもつながりました。
- ・電子カルテシステムを導入したことで、業務効率アップのみに留まらず、患者情報の一元管理と記録保持が確実に行われ、誤投薬のリスク軽減につながりました。

③高齢者総合福祉センター (WAC第2号施設)

【ニッセイ松戸アカデミー】

- ・公益財団法人ニッセイ緑の財団の主催で、「クリスマスリース」や「かわり屏風」作りを開催し、地域の多くの子供たちが参加してくれたことで、交流を深めることができました。
- ・定期的に発行する地域向け広報誌「ニッセイエデン便り」や財団のホームページをタイムリーに更新し、園の雰囲気や情報が閲覧者にも伝わる工夫をいたしました。

④在宅介護サービスセンター〔訪問介護事業〕(WAC第3号施設)

【ニッセイエデンヘルプステーション】

- ・今年度は積極的な渉外活動の結果、毎月新規契約が続いて好調でした。居宅介護支援専門員とのサービス担当者会議等で、訪問介護事業所としての介護サービス内容に関する提案や相談を受け、情報の引き出しにも務めました。また、障害福祉サービス事業も順調な伸びを保ち、行政からの依頼も増え、当施設への期待も高まっています。

⑤有料老人ホーム〔特定施設入居者生活介護事業〕(WAC第4号施設) 【松戸ニッセイエデンの園】

- ・一般居室の新規契約戸数は13戸、退去が12戸(一般居室7戸、介護居室5戸)、介護居室への住替えが3戸となりました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は348戸(総戸数352戸に対し入居率98.9%、入居者数422人)となりました。(一般居室315戸/315戸(入居率100.0%)、介護居室33戸/37戸(入居率89.2%))
- ・入居者の平均年齢は84.7歳(男性83.1歳、女性85.3歳)となり、対前年+0.1歳でした。
- ・総入居者数422人のうち要介護等認定者数(割合)は、年度末で144人(34.1%)となりました。
- ・2017年度からの食堂業務の直営化が定着し、今まで以上に質の高い食事サービスの提供を心掛けた結果、喫食率が対前年2.4%増となりました。
- ・募集広報室が企画する見学会では、各職場長が持ち回りでセミナー講師を担当するなど、施設全体で募集活動に取り組みました。

Ⅱ 調査研究事業《公益目的事業》

(1) 地元行政機関等と連携した地域住民への高齢期の「健康」「生きがい」「安心」「住まい」の4分野(以下「4分野」という)に関する情報提供

- ・奈良施設では、地元河合町が行っている介護予防リーダー養成講座「しゃきつと教室」に講師を派遣するとともに、地域における介護予防の普及に貢献する調査研究のあり方について検討を行いました。
- ・松戸施設の大ホールを利用して、毎年冬に行われていた東松戸病院主催の「市民公開講座」は、インフルエンザ流行のため、残念ながら中止となりました。

(2) WAC事業の展開の中で4分野に関するノウハウ・スキルの研究と成果の関係諸機関への情報提供

- ・『高齢社会における公共性の高い福祉サービス事業「あんしん電話」の包括的調査研究』<2017年10月～2019年9月まで>では、「あんしん電話」をツールとした住民主体の見守り活動を公共性・汎用性の高い福祉サービス事業として捉え、その概要を明らかにするとともに、地域活動に関わる見守りボランティア育成のあり方の検証にも取り組みました。
- ・奈良施設、松戸施設の各職場内で、高齢者への提供サービス等に関する調査研究及び学会を9・11月に開催、その研究成果について地域住民や関係諸機関へ情報提供を行いました。
(社会福祉法人 聖隷福祉事業団及び一般財団法人 日本老人福祉財団との共同研究)

(3) 地域住民への4分野に関する情報提供活動の実施

- ・11月の「介護の日」に奈良施設、松戸施設内でイベントを開催し、入居者や近隣にお住まいの高齢者及びその家族に、介護・医療・福祉の知識向上に向けた取り組みを実施しました。
- ・奈良施設、松戸施設各々で、地域住民や施設利用者とその家族向けに、認知症、転倒予防等をテーマにした講演会・教室を開催するなど、介護・介護予防に関する情報提供に努めました。

Ⅲ 奨学金助成事業《公益目的事業》

- ・介護マンパワーの育成を支援する観点から、介護福祉士、理学療法士、作業療法士を目指す専門学校生等への奨学金助成を行いました。
- ・1人当たりの奨学金の金額は年間24万円(月2万円)、2018年度の支給者数は48人で、支給を受けた実人数は合計707人となりました。

以上